

「(社) 日本水環境学会東北支部」 & 「美しい山形・最上川フォーラム」

ジョイントセミナー（山形県）開催報告

報告者 東北支部幹事

辻 弘子（山形県環境科学研究センター）

1. セミナーの概要

「美しい山形・最上川フォーラム（以下最上川フォーラム）」が平成 20 年度日本水環境学会・水環境文化賞を受賞したことから、平成 21 年度支部セミナーは、(社) 日本水環境学会東北支部（以下東北支部）と最上川フォーラムのジョイントで開催した。

主催：東北支部、最上川フォーラム

期日：2009 年 11 月 7 日（土）～8 日（日）

場所：11 月 7 日「支部幹事会」 山形テルサ（山形市）

「現地検討会」 最上川（白鷹町から大江町）

「交流会」すずらん（山形市）

11 月 8 日「シンポジウム・もがみがわ水環境発表会」 遊学館（山形市）

参加費：「現地検討会」1,000 円（交通費・保険料）、「交流会」4,000 円

参加者：「現地検討会」21 名、「交流会」17 名

「シンポジウム・もがみがわ水環境発表会」約 80 名

2. 開催状況

1) 現地検討会（13:00～17:30）

山形駅西口に集合し、マイクロバスで最上川（白鷹町）へ向かった。講師の佐藤五郎氏は米沢中央高校の副校長であり、長年同校の科学部を指導され、日本学生科学賞環境大臣賞（平成 16 年度）を始めとして数多くの賞に導いている。水環境学会の会員でもある。

現地検討会では、最上川の白鷹町荒砥から大江町左沢の約 25km におよぶ「五百川峡谷」について、歴史的・文化的側面から佐藤五郎氏の説明を受けた。

五百川峡谷は最上川の中で最大の狭窄部であり、その大きな浄化能力により上流部で汚れた水を回復して良好な水質維持に貢献している。しかし、かつての最上川舟運にとっては最大の難所であり、江戸時代には米沢藩が峡谷全体を掘削して通運を可能にし、その舟道遺構は日本最長であるとのことであ



佐藤五郎氏と現地検討会参加者
（つぶて石前）

った。また、五百川峡谷の激しい流れは全国のカヌー愛好者にとって絶好のカヌースポットとなっている（大江町、カヌーランド）。

2) 「(社) 日本水環境学会東北支部」 & 「美しい山形・最上川フォーラム」

ジョイントセミナー

①開会挨拶

海田 東北支部副支部長

柴田 最上川フォーラム会長

②シンポジウム (9:50～12:30)

「市民活動の発展と水環境指標の展開」

- ・ 水環境健全性指標の検討と試行調査から見られた様々な川の風景

石井誠治氏 ((株)共立理化学研究所)

- ・ 誰もが参加できる水辺観察・水質調査への期待

山田一裕氏 (岩手県立大学)

- ・ 清流指標「水辺診断書」と「身近な川や水辺の健康診断」

辻 浩子：山形県環境科学研究センター

六沢善幸：美しい山形・最上川フォーラム

- ・ 総合討論

③もがみがわ水環境発表会

ポスターセッション 11 題 (13:20～14:00)

口頭発表 5 題 (14:05～15:20)

〈参考：別添プログラム〉

最上川フォーラムが発足して9年が経過し、「身近な川や水辺の健康診断」は8年目、「もがみがわ水環境発表会」は第5回を数えたことが評価され、平成20年度に日本水環境学会・水環境文化賞を受賞することができた。この受賞を機に「(社) 日本水環境学会東北支部」 & 「美しい山形・最上川フォーラム」ジョイントセミナーを開催す



ることができ、また多数の参加を得て盛会であったことは、今後の活動の励みになると考えられる。

海田水環境学会東北支部副支部長挨拶

シンポジウムでは石井誠治氏、山田一裕氏から水環境指標を用いた市民の環境活動の発展について講演いただき、水環境向上の活動をしている多くの参加者にとって、今後の活発な活動へのヒントが得られたので

はないかと期待される。

ポスターセッション、口頭発表では水環境に関する幅広い分野の発表がなされ、会場から多くの質問・意見が出されたが、十分な意見交換の時間が取れなかったことは、反省点の一つであった。



シンポジウム 石井誠治氏



シンポジウム 山田一裕氏